５次元存在から学んだ未来経営学

～今、解き明かされる「時間の仕組み」

宇宙人チャネラーが語る起業家経営論～

目次

●前里光秀の自己紹介
●疑いながら知った、目に見えない世界　「イメージは存在する？」
●未来は、決まっていない　「それを止めるのは誰？」
●すべてを手にしている　「時間は幻想か？」
●時間は、点になる　「未来の経営理念とは？」
●ワクワクすることをやる　「やり方もワクワクか？」
●やりたいことはやれる　「人がやることは難しい？」
●道があるから生まれる　「教育とは？」
●はじめにゴールがある　「嫌いな人は、ずっと嫌い？」
●自分以外は存在しない　「人を変えるには？」
●時間はかからない　「商品が売れるまでの時間は？」

●決断が時間を点にする　「時間をかけて遊びたい？」
●国境なき未来が来る　「日本流の先にあるのは？」
●現実は望んでつくっている　「病気は、どう癒せるのか？」
●時間を手にして遊ぶ　「時間の力を借りるには？」
●時代が転換期を迎えている　「うつ病とは？」
●見たものは自分のものである　「目標を実現するには？」
●すべてはテンションで決まる　「あなたの意志が、弱いのか？」

※本書は、２０１４年９月２７日に開催された前里光秀トークライブの内容を掲載したものです。

●前里光秀の自己紹介

司会　本日は、トークライブリレー第１弾『前里光秀　５次元存在から学んだ未来経営学』にお越しいただき、誠にありがとうございます。どうぞ、ごゆっくりお楽しみください。では、早速ですがご紹介いたします。前里光秀さんです！

一同　（大きな拍手）

前里　前里光秀です。よろしくお願いします。

司会　前里光秀さんのことを、ご存じの方はいらっしゃいますか？

一同　（数名の方が手をあげる）

司会

４人ほどいますね・・・。今日ご存じの方は４名・・・っていうのが私の狙いだったんですね。と申しますのは、前里光秀は、日本の精神世界の中では非常に有名で、知る人ぞ知る人物であります。

前里光秀は、沖縄県出身で、現在沖縄県で学習塾「株式会社 前里光秀学園」を経営。そして、東京では「株式会社 前里光秀研究所」「株式会社 前里光秀おしゃれデザイン」の社長をしております。

その中でもともと実は・・・「視える人」っていうと皆さん、「・・・・・・」と思われるかと思いますけれど。最近、「ルーシー」っていう映画が上映されているのを見た方はいらっしゃいますか？

一同　（シーン・・・）

司会　あぁ～（笑）

「ルーシー」っていうのは、「頭脳が１００％活性化するとどうなっていくか？」「現在見えていないものが見えてくる」っていう映画なんです。前里光秀は沖縄県で生まれて以来、そういう体験を同じようにしてきています。

この世の中に生まれてきた限りは、「どういう使命をもって生きていくのか」っていうのを、７００年後に存在する「５次元の宇宙意識」からの色々な情報を得て、それを一般の人たちに伝えていくということを、今現在しております。

私はその中で、私自身と前里光秀の関係性は、「前里光秀大学」の先生と生徒なんですけれども。私自身、まぁ子育てが終わっ

て「後半生を豊かに健康に過ごすには、どうすればいいのかな？」って思ったときにモデルがいなかったんですね。

私の母は七十一歳にガンで亡くなりましたし、楽しい後半生だったかっていうとそんな気もしない。「じゃあ、どうすればいいんだろう？」って思ったときに、それまで「バシャール」とかそういう本で二十年間学んできた中で・・・。

楽しい人生を送っているんだけれども、じゃあ「健康とは何なんだろう？」「人生の目的って何なんだろう？」って考えたときに、ちょうどお知り合いになったのが、前里光秀です。そしてその中でいろいろ学ぶと、非常に生きやすくなってきた。

そういう知識や私の経験したことを、いわゆる精神世界を知っている人ではない他の方に知っていただきたいと思って、今日こういう会をもたせていただきました。本当にお忙しい中、お

集まりいただいて感謝しています。
では、詳しい前里光秀の人物紹介をしないのは、もう「人となり」を今見て感じていただければと思っております。では始めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

前里　よろしくお願いします。

一同　（大きな拍手）

●疑いながら知った、目に見えない世界　「イメージは存在する？」

前里　そうですね・・・今、そういうスピリチュアルな活動をするよ

うになって6年です。自分でやりながら、自分で日々疑う毎日です。と言いますのも、この世界は「なかなか証明できない」っていう欠点があるからです。

独立してからは、十二年になります。学習塾に関しては「勉強を教える」ものなんでわかりやすいです。でもスピリチュアルの場合ですと本当になにがどういう理由で、例えば「病気の方が治ったのか？」っていう・・・結局は本人の力だったりします。

例えばヒーリングをやって「治った」ってなっても、それは「本人の力」であるということははっきり分かるので、「その手伝いは少ししたのかな」というくらいです。そういう作用があって、「オーラが見えて」って言っても、それがまた全員に共通しているわけではないようなところもたくさん見てきました。

そういう意味で、自分の中でやっぱり疑いの気持ちは・・・なんて言うんですかね、人以上にあるんじゃないかなと思います。「見る」からこそ、どうしてもその反作用が起こってしまうようなものがありながらの６年間でした。

その中で「カウンセリング」ですとか、「潜在意識の動き」ですとか、「スピリチュアル情報」ですとか、「亡くなった方」「宇宙人」と言われるような人たちとコンタクトを取る中で、今があります。世の中には色んな活動をしている方がたくさんいらっしゃいます。

「バシャール」とか「エクトン」ですとか、あと国内にも多くの活動家の方がいらっしゃるんですが、どの部類に僕が所属するのかはまだはっきり分かってはいないです。ですが、僕の中である「考え方」っていうのがいろいろあって、それを、プロ

グラム等を通してお伝えしているというのが現状です。

あまり固くなってもあれなんですけども、「未来の話」をするのが主なのかなと思いまして、僕が聞いた中での話をいくつかさせていただきながら、質問のやりとりをしながら、進めていけたらいいのかなと思います。

司会　お願いします。

前里　例えば僕がよくあるのが、寝ているときと寝そうになるときどちらでも両方あるんですけども、無理やり、「体外離脱」をさせられてレッスンを受けることがあります。その中で過去も行きましたし、未来も行きました。その中で「いちばん重要だ」って教えられたのが、個人も地球も「未来が無限にある」ということを何度も教わりました。

●未来は、決まっていない　「それを止めるのは誰？」

前里

未来が無限にある。これは誰でも聞いたことがある、基本的な一般常識に近い考え方かもしれませんけれども、その「未来が無限にある」ということの意味するところが、「本人が思考すること」。

要は「浮かぶこと」「上がってくる思考」っていうのは、一瞬浮かぶことであったとしても、そこには何十年生活をしている「もう１人の自分」がいて、その別の地球で８０年の人生を送っている。

そのようなところから一瞬だけバナナのイメージがきたり、一瞬だけなにか友達としゃべっているようなイメージが来たり、

その「イメージが来るということ自体の意味」もそういうところから教わりました。

一瞬入ってくる・・・例えば、「これをやりたい！」「あれをやりたい！」っていうのは妄想でつくりあげたのではなくて、そこに別のパラレル宇宙があるから、そこにチューニングが合う。だから自分の中にそれが入ってくる。これは、本当に僕も腑に落ちるまではすごい時間がかかりました。空想のような話だからです。

でもそれが分かることで大きなことが起こったのは、「可能性が本当に無限にある・・・かもしれないな」っていう思いが僕の中で出てきました。なので、やろうと思ったことが「不 安だな」とか「怖いな」と思ったことであっても、「こういうふうになったらいいな」って思う。これが担保で動けるようになっていった、ということなんですよね。

それは一瞬の僕の中での妄想、イメージだとしても、そこに別の地球があってそれにチューニングを合わせているから浮かぶことができる。ということであれば、それをやっていくときに「必ずそこに移れる」という担保になるところまで入れる。その考えが入るか入らないかが、すごく差があるのかなとは思うんです。科学で証明はできない。

しかし、自分の中のマインド、精神を通して「チャネリング」はやります。宇宙の存在や亡くなった方、未来の自分であっても隣の地球の自分であっても、自分の精神を通してそこにチューニングを合わせてチャネリング・・・いわゆる「テレパシーの連続」が、高速で来ます。これは誰でもやっていることなんです。

それを意図的にやっていくことによって、「自分が望む未来に行

きやすくなるな」っていうことを、そのイメージというものの意味合いを通して見たり、聞いたり、体験したりしてきました。

「未来の地球」というのもいくつか見た中で、これは１週間から十日、「予言には限界がある」ということも教わりました。

未来は固定されていないんですが、本人の思考とか思いがなにか「スイッチ」が入って「今のエネルギーで見ると、こう行くでしょう」っていうイメージも、本人がなにかスイッチングすることによって、その未来ではなくて別の未来に行く。それは「１週間、１０日もあれば人は簡単にスイッチするんだ」っていうことも、カウンセリングの中で実際に聞いて体験してきました。

未来は固定化されていない。そのイメージすることの意味合いを聞いた中で、「自分の可能性がそこにあるんだな」っていうことにいろいろ気付きました。

司会　なるほど・・・。

前里　そして、「なにを本人が望むのか？」「どういうところに行くのか？」っていうところで理解する、進めていく中で重要だなと思ったことが２つあります。それは、まず人間のまわりを取り囲っているのが「潜在意識」という、今を固定化しようとする、人間がつくり出したものです。

なにか怖いものを隠しておいたり、見たくないものをちょっと置くような、押入れのようなものがあります。押入れに置いてある以上は、それはなくならないという安心感もありながら、それが明らかにされると、自分の価値が下がって見える、下がるように感じる。

その「隠し場所」として人類が途中で潜在意識というものをつ

くったそうです。それがまず人間のまわりにある。

そこを理解した先に「スピリチュアル」という、また大きな円があるんだっていうことも聞きました。なので、スピリチュアルの話だけ聞いてもなかなかそこに理論を使って行けないのを見る中で、「潜在意識が先なのかな」っていう僕の中の認識があります。

そこを「今を固定しよう」「今を我慢しよう」・・・例えば、「今の職場を変えられない」っていう思いも人によってはあります。

「今の収入を変えられない」「変えにくい」というのも、その潜在意識の中で今を固定化されている中で暮らしていると、どうしてもそれ以外が自分の中に簡単に入ってくるようには思えなかったりする。

それが真実ではなくて、「そういうラインが潜在意識なんだ」っ

ていうことを聞いたことも僕の中では大きかったです。それが例え空想であろうがなんであろうが、自分が認識していく中でやっていくと、そこに「マインドの柔軟性」が出るようになります。

それを通して、まずは潜在意識を使って自分が「なんとなく今日もこのまんまの自分で、昨日と同じような自分で行くんだ」というようなものも、潜在意識の作用として起こっています。それを冷静に分かりながら、冷静に自分が「どうしたいのか？」を考えていく。

だけどその思考自体も「昨日の延長の自分」でしか考えないので、なかなか自分がやりたいことが、本当に爆発的にやりたいようなことになかなか触れる機会は少なかったりします。すごくやりたいことも浮かんだりはするんですけれども、それが「認識として上がるまでには時間がかかる」っていうこともポイン

トなのかなと思いました。

そこがありつつの、そのまわりにあるスピリチュアルというものを理解していく中で、またいろんなことを聞いたりしました。それは「時間の概念」だったり、「すべてはひとつである」こと。どこでも聞いたことあるような概念でもそうです。

「ひとつであるからこそ自分がすべてをつくることができる」っていう基本的な概念です。あとは、僕は経営者をやってきましたので、スピリチュアルを扱っているとどうしても・・・ゆったりしがち・・・。「あたたかい感じがする領域」なので、あまりガツガツしてないような雰囲気がスピリチュアルの中にあるというのは、その業界に身を置きながら感じます。

入口が経営者をやっていて、途中で無理やり起こった体外離脱から始まったので、経営者の目線として、どうしてもコスト意

識だったり、スピードがないと経営がまわせないことだったり。戦略だったり、理念だったり、ミッションをずーっと自分の中に入れて忘れない集中力の大切さだったり・・・。

というのがありながらスピリチュアルに入ったのもあって、そこで「どうやって未来では会社を経営していくんだろう？」とか、「どういうかたちの会社で運営して、どういう方法でやっている人が楽しく経営者としてやっているのか？」とか。そういうのは、個人的な意見として気になるところが今でもありますし、これまでもそういう思いがありました。

● すべてを手にしている　「時間は幻想か？」

前里

僕が聞いた中でこれも重要になってくるんですけども、重要なこととして僕が教えられた、もしくは未来に行ってある場所で見聞きしたり体験したことを少しお話します。いちばん重要になってくるのは、「時間の柔軟性」だそうです。

「時間が大切である」とか「タイムマネジメント」とかいろんなものは今の地球上でもあります。「時間がもつ幻想というものをどれだけ自分の中で排除するか」ではなくて、「時間という概念をどう克服していけるのか」によって、だいぶ変わってくる。未来の学校においては、かなりの頻度で、場所で、教えていました。例えばですね・・・（ボードに「時間の仕組み」の図を書いていく）

「過去」「現在」「未来」という概念があります。「実際は今のみ

が存在するんだ」っていうことを僕はいろんなところで聞いてきました。だけど実際に過去もある、実際に未来もあるように感じる。いくら「幻想だ」と言われてなかなか信じられなくても、僕はいいと思います。僕も半分半分で今もやっています。

その未来において細かく教えられていることを少しお話しますと、自分の中にある人生というものが、例えば・・・これは「時間」。ＤＶＤなのでデータがいろいろ書き込まれているとする。例えば、「三十七歳」「三十一歳」「四十五歳」「四十六歳」。で、「一歳」「二歳」「三歳」「四歳」というデータがあるとします。ここもそうです。「十九日の二十一時」とか「二十一日の二十三時」。いろんな時間があります。時間があるように見える。実際に時間が流れているように感じる。

それを「幻想だ、幻想だ」って言ってもよく分からないところがありますけれども、それは時間を体験している中で誰でも考

えることだと思うんです。この映画のフィルムに当たるものがそれぞれある。その中にある1コマ、1つのデータはいっぱいありますけども、「すべて同じところにある」というところがポイントになります。

要はフィルムが長く続いていて、この1枚の中に過去・現在・未来が全部入っている。　ＤＶＤも1枚の中に、本人の過去・現在・未来が入っている。例えば僕が、こうやって手を広げる。次の瞬間にこれを「閉じる」こともできれば、「こっちでピースをする」こともできれば、「ピースをする」こともできれば・・・っていろんなバージョンが入っている。

それがすべてあるんですけれども、どこかで自分の中で「1つだけ選んでいる」んですね。1つの地点を自分の意思で1か所だけこうやってこのポーズを僕自身が選んでいる。でも別のポーズを選ぶ可能性もあった。ですが、これを選んでいる。

司会　「現在に今にすべてがある」ということは、過去っていうのは今つくって選んで、「こういう過去があった」「こういう・・・」。

前里　過去もチューニングを合わせたとき、「そのときにある」わけですね。今もある、未来も同時のこの流れの中にある。ですが１つだけ違うのは・・・周波数が違います。振動数が違うんですよね。同じ自分なんですけども、別バージョンの自分がいたるところにたくさんいる。イメージの中に一瞬入ってくることも、全部このフィルムの中に収められている。

これを「今、現在しかない」「それ以外は幻想である」「時間も幻想である」と言っています。「時間が幻想」であれば、「動きも幻想」ということになるんです。この「動きの中にある変化」というのは、時間の中にのみ発現する現象なんですね。なので、自分の中にある「時間」というものが幻想であり、その「動き」

というのも幻想。

ですが、すべての自分の動き、すべての自分のバージョン、そして未来や過去は、すべて「1枚のフィルム」の中にあって、それをすべて選ぶことができる。例えば・・・例えばＵＦＯとかが移動するときに、空間とか時間を移動するのではなくて、同じフィルムの中にあるところのバージョンを少し変えるだけなので、「ここ」という時間も存在している。

移動する時間とか空間を通して移動するのではなくて、すでに同時に存在している。この「同時に存在している」というところが、「過去も現在も未来も同時に自分自身がもっている」ということになります。「なにかを変える」というよりも、「すべて、もともともっている」。

その、もともともっている中で浮かんでくることが「イメージ」。

このイメージで浮かぶこと、自分の中に起こる思考とかイメージが、「すでに完璧なんだ」っていう前提に立たないとこの辺が腑に落ちてこない。

司会　よく、「引き寄せの科学」とかあります。

それで「自分の未来はこうなりたい！」っていう、「イメージすればいいんだ」って言われます。なかなかそうはうまくいかないのは、今同じところに過去も現在も未来もあるという状況の中でクリアなイメージができないために、その波動のところへ移動できない・・・？

前里　ではないです。「クリアなイメージ」ではなくて、「一瞬パッと浮かぶことは、すでに完璧」なんです。

司会　あぁ・・・。

前里　「クリアなイメージができないから、それが嘘である」という嘘の上書きみたいなところが、それは「一瞬で浮かんだイメージが実現するわけがない」という強固な方程式です。これを「観念」っていう言い方をしますね。例えば、「自分の収入はこれくらいは当然だ！」って思うもので、それぞれの収入をつくる。これは分かりやすい話なのかなとは思うんですが。

●時間は、点になる　「未来の経営理念とは？」

前里

強く信じ込んでいる・・・要は観念が「イメージに対しての観念」を変えなければ、時間が克服できない。強烈に「時間が直線である」って思い込んでしまうんですよね。時間が直線的すぎると、「スタートがあってゴールがある」というような考え方になります。

だけど、ここを理解させるような講義の中では、「スタートもゴールも同時に存在しるということを何回も何回も叩き込まれていく中で、時間を克服していく」という言い方をしていました。「なくす」とか「排除する」ではなくて、時間というものの性質を克服していく。それぐらい人間が時間に対しての強固な思い込みもある。時間が直線的であれば、スタートがあってゴールがある。

そして「時間が点になる」と、まずゴールがあって、スタートがあとに来てもいい。さらにこのあとに、「時間がない」という

ものがあるんですけれども。時間が点になると、「そんなに準備してなかったけど、まぁいい感じで終わったね！」っていうことが起こります。

準備してきっちりやったほうがいいと思っているところから、なんとなく・・・パーッてまわって、シンクロが起こって「うまくまわって終わりました！」っていうようなものが、「直線」から「点」になり、その「点」がまた「ゼロ」になっていくと強く分かってくる。

例えば「ある時間にいた自分」と、「別の時間にいた自分」は同時に存在していて、どちらかが消えたわけではないんです。いくつものフィルムをそれぞれがもっている、いくつものディスクをもっている。

これが分かってくると、１つの中に「過去」「現在」「未来」と

いうものが入っている。すると、「自分がどうしたいか？」というのが理念になってきます。今、だいたいの会社が１つの経営理念で、いくつももっているわけではないと思います。未来では、そういったことが多数起こってくる。そして、理念の書き換えが頻繁に起こるようになっていました。

今の僕の経営者の感覚からすると、まったくスピードが早過ぎて「よく理解できないなぁ」っていうのがはじめの印象でした。そのときのテンションで、気分で、変えているようにすら見えました。

それは理念じゃないような感じですし、経営戦略というものも、「いつ、誰に、どのように売っていくか？」というような経営戦略すらも日々、書き換えが行われている中で、朝の段階で今日の経営戦略が決まっていく。

なぜそれが行われるかというと、「シンクロニシティ」が多く起こっていくようになるからです。それが実現可能になっていた。「偶然の一致」です。「これをやろう！」と思った瞬間に、電話がかかってきた。「たまたまだよね」っていうようなものがいたるところで起こっている。

それは時間を点にしていく中で、会社がそういうふうになっていくのを見たときに、「楽そうでいいな～！」っていう印象がありましたね。「頑張っていって」っていうよりも、たまたまそういうものが連続的に起こるので、その流れの中でそれがうまくまわっていく。

でもこれは、未来の話なので今すぐじゃない。「どうすればいいんだ？」ってなると思うんですけども、僕は未来にこういうところがあると見た経験は大きくて。であれば、「限りなくそこに近いような在り方をとろう」というのが僕の考え方です。

その中で、会社でのやり方や経営戦略とかもちろんありますけれども、社員には「どう、自分が今日楽しく生きていきたいのかを考えるように」ということをよく言います。哲学的で少し難しいように感じる方もいると思うんですが。時間が直線であれば、成長がすごく遅い。入社してから1年も2年もかからないと・・・学習塾でいえば、1つの教室を担当する教室長になるまでに、もう何年もかかってしまう。

ですが、こういう「点の概念」をずーっと教えていきますと、成長がすごく早い。なぜかそんなに教えてないのに生徒をどんどん引っ張って、紹介が増えていく・・・っていうようなものも起こる。

どうやってそれができたのか？それは僕が学んだ「時間の概念」がこういう1つのものの中にあって、「イメージすることが、その人のすべてもっている完璧な未来だ」っていうことを何度も

やらないと1回では理解できない。

それをやっていく中で成長するのは、「しゃべるから分かる」。「分かるからしゃべる」っていうのが普通ですけれども、「しゃべるから理解できる」「しゃべるから整える」。「まとめてから、勉強してから、分かるようになってからしゃべらないとしゃべられない」という観念が全部逆だったので、「怖い」みたいな感情が起こってくるんですね。だからそれを練習していってもらうと、僕が教わったようなところに近づいていく。

司会　なるほど・・・。

● ワクワクすることをやる　「やり方もワクワクか？」

もう1つはですね。「楽しいことをやろう」「自分が好きなことをやろう」「好きなことじゃないと成功できない」という、「情熱が経営者の第1番目にくる条件だ」と言われています。それは、みなさんもよく知っていることだと思うんです。

それもすごく自分がワクワクすること、好きなこと、楽しいこと・・・をやっていくときに、「ワクワクすることをやる」というのは、すごく大事。でも、「ここでつまずいている人が多い」ということも僕は聞きました。

「何でつまずくか？」というその次に。「ワクワクすることはワクワクするやり方を取っていないと、その連動が起こらない」ということです。それが僕の中ですごく大きかったです。「この仕事をやりたい。だけど、こういうかたちでやりたいんだ、自分は」っていうものがないと、ワクワクすることをやっていても・・・。

なぜか実際にやってみると現実的にうまくまわらなかったり、「なんだろうな、これ・・・」っていうもので。「はじめからやり方はこれがいい」っていうのは、模索していく中で分かるというのもあるんです。

ですが、はじめから「こういうかたちで、こういうスタイルで、こういうかたちの収入で仕事ができないかな？」っていうことを先に考えていく中で、「好きなことを好きな時間に、好きな人とやっていく」というのをきっちり決めたとき。

はじめは、小さい会社、フリーからじゃないと継承はできにくいことかもしれませんけども、それをやっていく中で、「好き」や「ワクワクする」というエネルギーが通りやすくなる。それに我慢をしていると、もしくはそれに気付かなくて、自分の直感にあまりのっていないと、そのエネルギーの滞りが起こって

しまって、「病気」が起こります。

ヒーリングにおいても、人にはそれぞれ「エネルギーフィールド」というエネルギーの塊の領域があります。そのエネルギーが滞ってしまう場所が、いわゆる病気。それは、オーラが見える方であればなんとなく分かるのかなと。

だけどオーラが見えなくても、直感的に「ここがちょっと・・・具合がどうなの？」って分かるようなものは、相手のエネルギーに自分の意識を、「精神というチャンネル」を通してチャネリングをすると、相手の気持ちが同時に分かるようになっていきます。

その中でヒーリングをするときに、まずチューニングから始めるんです。そのときに相手のエネルギーの滞りがあるのは、「ワクワクすることがワクワクするやり方でいかない」というよう

な我慢がいっぱいあると、そういうものが起こりやすくなってくる、というのもありました。

司会

今、「ワクワクする意識を持続させるシステムというのがないと、それはしないんだ」ということをおっしゃっています。例えば「転職したい」って思うときに、今の仕事の中ですごく努力をしてきたんだけれども、ちょっと成長の実感がないと。

それで独立開業をしたい気持ちも強い、確信できる「自分自身の強み」というのがないんだけれども、「そういうのが見つからなくても前に進んでいいものだろうか？」というご質問があります。

それは今のお話だと、自分自身のワクワクした気持ちを続けるものが見つかっていないと、なかなか時間がかかるということですか？

前里　そうですね。経営者の視点でもチャネラーの視点でもまったく同じなんですけども、「本当にいける！」と思わないといけません。

司会　あぁ・・・。

前里　で、またそんなに甘くはないと思いますね。本当にいけると思う中で、いろんなんものを引き寄せるような・・・「引き寄せ」ではないんですけどね、ただの移動なので。でも分かりやすい言葉で言うと、「引き寄せる」。

「たまたま偶然、こういう人に出会って、こうやってつくり拡大していった」・・・なぜかうまくまわっている。というようなものがあるのは第1の条件として、やっぱり本人の「やれる！」という情熱。情熱が強くないと確信にはいたらない。でももちろん、不安がありながらでやったりもする。

それで１００％じゃない、「９０％の自分のリアリティを掴む」という方もいます。「今　の仕事もいい。でも、独立したい」、それは多くの方が抱えているのかなと。もしくは経営者であっても、「このビジネスに参入しようかどうか？」と思っても、確信　がないとどっかで自分のエネルギーの流れがストップしてしまうのかなと思いますね。

なので、自分がいろんな方法を考えます。「こういう仕事をこういうやり方で、こういうかたちでやる」ということを何回もイメージして考えて。「ある」ということは、「別の世界にある」のでそれは実現できるのですが・・・ですが、これは「スピリチュアルの理論」です。

先ほどもお話した、人間のまわりには潜在意識というものがあります。ですからこれは理論的には成立するんですが、実際に

事を起こしていくときにストップをかける潜在意識というものがある以上、本当に確信的に思っていないと、必ず「前の自分のエネルギーが尾を引いてうまくいかない」ということが起こります。

例えば、Aという流れから「やっぱりBに移りたい」と行くときに、しばらくAが尾を引いていきます。これは潜在意識の作用です。「Bに移った際にAがピタッと止まる。すぐに移れるんだ」。これはスピリチュアルの理論です。

ですが、スピリチュアルを活用しても潜在意識を活用していかないと、尾を引くんだっていうことが分からないんですね。でもこの尾を引く現象や不安が起こると、「やっぱりダメだったんじゃないか？」とか、戻ったりとか躊躇したりとか、いろんなことが起こる。

これがあると、確信的に動いていかない。なので、「自分の中で強い確信がもてるようになる」のが理想ではあります。不安がありながらみんな独立はしていきますね、僕もそうでした。不安もあるんですけれども、「緊張」という概念と「ワクワク」っていう概念は実は同じエネルギーです。

自分の中に「すごくやりたい！」っていう思いを強めにもってワクワクしている。だけど、それを「できないかもしれない」って思うと一瞬で緊張になるんですね。これを少し変えるやり方として、緊張ではなくて「武者震い」。「武者震いがしすぎて、体が震えてしまう！」っていうふうに置き換えると、緊張からワクワクに戻りやすくなっていきます。

これも言葉遊びのように聞こえますけれども、本気だとそういうことができるようになっていく。だからすごい緊張を突き抜けて「どうにかなるかもしれない・・・」、それでも「いけるん

だ！」っていう確信がある方が独立はしやすいのかなとは思いますね。僕は経営をやっている立場として、やっぱりおすすめしますね。ぜひ、独立する機会があれば独立していただけたらいいんじゃないかなと思います。

●やりたいことはやれる　「人がやることは難しい？」

司会　では、「独立しようと決心してから、実際に行動に移るまでの時間のルール」ってあるんでしょうか？どのくらいの時間がかかるとか、それはその人その人で・・・？

前里　いや、「スピリチュアル的」にはありません。ただ、「現実的」

にはいろんなルールを知る必要があると思います。「経営者には経営者の世界で使われるルール」があると思います。なので、会社員の方でもいろんな会社の規模、グレードがあると思うのであれなんですが、だいたい経営者は経営者なりのルールをもって戦略的に見たり。

例えば、「目に見えるお金」と「目に見えないお金」というものがあります。「見えるもの」とすれば現金や株式、不動産。「見えないもの」はリスク要因、組織、市場。これらは見えません。経営者はその「見えないものを見ていく」という商売でもあるので、そこに対しての自分の整理がついた上でされたほうが、不安はなくなりやすい。

その辺をある程度知っていくと、動きやすいのかなと思います。ただ、準備というのは人それぞれで、「準備ができた」というのは本人の中での確信です。まわりが「絶対、これうまくいかな

い」って言っても、うまくいくことってありますね。「隣の人の観念」というのがあって、例えば、あるお店を見ていたらそれは自分でも経営　できるお店なんです。

先ほどのイメージが、そういうことを僕に教えてくれた。僕はそういうふうにまわりの会社を見ます。なので、「面白そうだな」って思ったら「自分でもやってみよう」とは考える。

だけど、「自分の観念」と「隣の人の観念」はものすごく違うように見えるので、例えば「こんな場所で折り紙専門店をつくる人の気がしれないな・・・」って思うこともあります。ですが、理論にいったん戻ると、「あれも僕がやろうと思ってもできるんだ」って。

京都に行ったときにそういう専門店がありました。でも「折り紙だけ売る」ということは、僕にとっては「すごいな！」って

思ったんですね。それすらも別の人の観念、そして自分の観念。だけどイメージですでに見ているので、それの実現はできる。あとは「やりたい」という思いが強くあるかどうか。

もう1つは、「隣の人がやっていることは、難しいことのように見える」。すごく難しいことをやっているように見えるんですけれども、自分と隣の人の間にあるこの「観念という膜」が、難しかったんで何回もレッスンを受けたんです。

実際はもう本当に信じられないくらい薄い、「信じられないくらい薄い膜でしかなかった」っていうのが何回もレッスンを受けても、それでも疑います。そのぐらい人がやっていることは、自分にできないように見える。思い込まされる。

これは学校教育の弊害でもあります。だから「可能性がある」と言いながら、限定方式で学校は教育をしますので、「やっぱ

り・・・あの人よりはできない」っていう訓練を受ける中で、どんどん「自分は隣の人みたいにはできなかった・・・」ということを思う。

それが全部悪いわけではなくて、自分が信じている思いと隣の人が信じている思いはすごくかけ離れているように見える。ですが、「やりたい」と思ったことは、その膜は薄いので「やれるんだ」っていうようなことも僕の中で大きかったです。だから「本人がどう思うのか」ですね。

●道があるから生まれる　「教育とは？」

司会

今お伺いした中で、時間の観念とかいろいろな物事に対する観念、今日本の教育って限定方式だから「人がやることも自分はやれない」っていう観念がある。でも本当は時間の観念を排除すれば、いろいろな偶然も起こってすぐできる。

今日いらしている方の中でお子様をもってらっしゃる方もいらっしゃいますし、今後、子供を育てるときに教育制度の中で限定方式がまだ残る日本ではありますけれども、どういうふうに育てていったらいいのか？

今までの経済成長で右肩上がりの社会だった日本ではなく、経済も文化も成熟してそれほどの変化も見込めない今において、これから生まれ出て成長していく子供たちにはどういう教育をし、また親としてどういう接し方をしたほうがいいんでしょうか？

前里

教育の考え方については本当にたくさんあると思うので、僕が「これだ」ってことはなかなか、言うことは難しいんですが・・・。

それでも生まれてくる前の世界とかの話からすると、「道があるので生まれてきた」というのがまずいちばんの基礎になります。それはなんとなく分かると思います。その中で本人がやってみたいことをさせてみる。だけど「我慢」とか「努力」とか「忍耐」ということも必要である。

子供たちのやり方で自分の創造性の発揮を起こしていくので、特に「チャネラー」って言われる子供たちは増えていきます。テストをする前にテストの答えが分かっているような子供たちが出てきたときに、「テストの意味合いって何なんだ?」っていうのを国が考えるようになっていきます。まぁ、バレてしまってはしょうがない。テストにならない。

あとは「知識の価値」が下がっていく。ですが、「知識をどう応用していくのか？」っていうのは、教育の本幹の部分だと思うので、いろいろ考えさせる、いろいろ体験させる。学校教育で全部はできないかもしれませんけども、「個人々々の家庭がもっている価値観」によってそれは行われるべきなのかなと思います。

ただ、「子供が生まれる」ということは、「道があって、役割があって生まれてきている」という立場に立ちますと、必要以上には心配しなくなっていくと思いますね。学習塾を１２年やってきて思うのは、やっぱり子供のことだからこそ心配する。心配するんですけれども、「心配」という名の「自分の人生を見ることを止めて、子供を心配する」中で「自分の人生に向き合っていない」方も多くいました。

なので、心配なのは子供じゃなくて「自分の人生」。それを気付

かないと、「心配だ、心配だ」って言って、実際は自分が楽しそうにやってない。僕らはなるべくお母さんと面談する、お父さんと面談するときでも、そういうような話もできたらいいんじゃないのかなと。

それは簡単になんでもかんでもバーッてアドバイスできるわけじゃないんですけども、そういうような作用もいくつかありました。「人を幸せにする」ということは、これもみなさん聞いたことですけれども、自分の中にあるコップの水が溢れなければ人を救うことはできない。

「自分が足りない」っていう思いで、ネガティブに努力する方がいます。成功する人ほど「まだまだ足りない」って思って勉強しますが、それとは少し違うニュアンスで、「自分は足りてないんだ」っていう思いをもっている。

ボランティアをやろうとしても、その「足りない思い」をボランティアを受ける方に流してしまう。それを受けた方は、またそれを別の人に流そうとする。そうではなくて、自分の中でやりたいことをやりたい方法でやっているときに溢れます。結果、人を救おうと思ってなくても、それに合った人が近くに寄ってきてきれいにまわってくる。これはシンクロでもあるんですね。

「シンクロがある」ということや、「自分がどうしたいのか？」ということを常に考えさせることが、教育方法としていちばんいいと思うんです。それでもいろんな考え方があると　思うので、僕はここで偉そうにはお話できないのかなとは思うんですが。シンクロについては、いろんな場所でもっと教えられるようになっていくと思います。

司会　じゃあ、子供の自発的な「こうしたい！」っていう気持ちを育ててやるというのは、いちばん大事っていうことですか？

前里　はい。これは大人でも言えます。

●はじめにゴールがある　「嫌いな人は、ずっと嫌い？」

前里　例えば、「独立したい」。「この仕事とこの仕事がある」、もしくは「このやり方とこのやり方がある」。迷いますね。どうしようか？経営者は決断しなければいけない。「決断する商売」みたいなところがあるので。

じゃあ、Aで行く。やって、やった瞬間に「ちょっと違う」って思ったりするんですね。次に、これを急いで早めに止める勇気が必要になっていきます。それでBをやっていく。

これは子供でも言えることで、「これをやりたい」と思ったからやったけども、「ちょっと違うな」と思ったときに、「じゃあこれに移ろう」。

そうすると、「こらえ症がない」ように見えるんですね。ですが、それは「どうせできない」という前提で子供を見たときの見方なんです。きれいにまとまっていきます。自由にさせてみても。その中でやるんであれば、「どうしたいのか？」ゆっくり対話をして考えさせていくようにすると、経営者や大人になったときでもパッと方向転換ができるようになる。それには「時間の柔軟性」が必要になっていきます。

「1回はじめてしまったらゴールまでいかないといけない」。これは「直線的な思考」なんですね。これが「点」になると、「ゴールがあってスタートが後半にあってもいいんじゃないか？」

っていう考え方になります。

まだまだ未経験であっても、「なにかを依頼されればやってみる」というようなことが、点になると起こっていきます。そうするとなぜか、まわっていく。「なにか目に見えない力でうまく流れていくんだよな～」っていう経験は誰でもあると思うんですが、そういうときは時間の直線が点になっていく。

その中で、フィルムの中にいくつかあるバージョンの自分は周波数が違うだけで同時に存在している。「イメージすることが、このフィルムの中に全部入っている」ということです。なので、すべてイメージできることは「自分という世界」と全部つながっている。「別の時間」としてつながっている。それを理解するのはすごくパワフルなことです。

司会　自分の周波数とは、ラジオでいえばＦＭ放送にチャンネル合わ

せるというイメージがあります。例えば社会に出て、学校時代も含めて「人間関係は周波数だ」と思うんです。例えば仕事上でどうしても付き合っていかなければいけない相手に非常に嫌悪感を感じ、好きな気持ちが抱けないときには、周波数から考えたらどういうふうに考えていけばいいんでしょうか？

一般的な考えで言えば、嫌いな人を好きにはなれません。それは当たり前の考えです。

それを無理やり好きになろうとすることで苦しんでいるのかもしれない。でもそれは、「象徴的にその人を通してそれを見ている」だけであって、「自分がやりたくないことをやっている」という心の苦しみや叫びを、その人を通して体験している可能性もあります。

自分を振り返って、なにかに我慢している・・・要はイヤな人に出会っている。嫌いな人を好きにはなれない。なろうと思ったらできるかもしれませんけど、それは大人の都合というか理想で。基本、嫌いな人は嫌いだと思うと思います。

なにかが変われば仲良くなれるんでしょうけど、問題は「本当に嫌い」ではなくて、「自 分がなにかを我慢している象徴」として示唆として、その人に出会っている可能性がある。

そう考えますと、それも「どうしても嫌いだ、嫌いだ！」って、「どうしたらいいんだろ う？」って考えるということは、時間がやや直線的なんです。

「変えられないこの状況」って思い込んでいる可能性がある。でもそれを「点だよね」ってなってくると「嫌いなまんま」っていうことが存在しなくなるんです。意味分かりますか？嫌い

なまんま、来週もまた嫌いであろう。「月曜日から嫌いであろう生活が始まるんだ！」

司会　「まんま」っていうのが直線ですね。

前里　そうです。「今日は嫌いだけど、今日までは嫌いだったけど、来週からは点だし終わるんだ」って思うとなぜか気にならなくなるって言っています。でもそれは本人がどこまでそう思い込めるのかっていう問題があるので、「絶対にそうですよ」とは言いきれない。本人の精神が決める。

実際は「その人のエネルギーの嫌いな部分」に自分の精神というチャンネルでもってチャネリングをしているので、それが映るわけですね。でもそうじゃない側面にチャンネルを合わせると、そんなに嫌いではない。なので、「チューニングを替える」。

「1」から「3」に移すだけなんですけども、それも「点」に

ならないと、「今言っている言葉が受け入れられない」ということになります。点の話、そういうスピリチュアルとか5次元からの話ですが、５次元は常に動いているので点、点に近い。

その話を直線的に聞くとなんか簡単にはできないような感じがするんですれども、それが「できるんだ」っていう手で、「ちょっと遊びでやってみよう。１週間だけ」。そうやると、いろんなものが柔らかくなっていくこともあります。それは人によっては少し違いがあると思います。

なにかを変えたときに、「しばらくはもう大丈夫と思ったんだけど、出た！またなんか変な食べ方してる・・・」とか、イヤなところが少しだけ映ったりするのが尾を引くようなことですね。でもそれも無視していると、それはもう目に映らなくなる。もしくは異動だったり自分が退職することだったり・・・ということになります。

「自分が好きなことを、好きなやり方で、好きな人たちとやるということができるんだ」って確信すると、そのときは独立の時期だと思います。「それ以外は受け入れられない」って決めることが意外に難しいと思っているんですよね。それは簡単なことなんですけれども、意外にそれをパッと決めたことがある経験がある人は少ないです。

なんでかというと、「そういうことはできない！」って思いがあるので。「そんなことを思ってはいけないような・・・」、ただ思うだけなんですけど、思ってしまう。少しやってみても面白い、遊びとして。そうして別の同じフィルムの中で、別のコマの中にそういう自分もリアリティとして存在しているというのが分かってくると、直線が点になりやすくなっていくということです。

司会　はい、分かりました。

●自分以外は存在しない　「人を変えるには？」

Aさん　ちょっと聞いてもいいですか？

前里　はい。

Aさん　えぇっと・・・例えば「僕が今5分後に家に帰っている」とか、イメージが空想ではできるんですけど、「現実は不可能」って思っているんですよね。「イメージの内容をどう決めているか？」っていうと、僕がそこまでかけられる時間を「どこまで短縮で

きるか」っていつも考えるので、結局、自分は「時間がかかる」って考えちゃうんですね。

例えば「まずゴールがある」っていうのも考え方としてすごい分かるんですけども、い　ろんなところにそこにいたるまでに・・・。「家に帰る」という行動をつくったときに、そこにいたるまでに「どこを通過する」っていう流れの選択肢を取っていかないといけないというイメージが、やっぱりちょっと強いなって思うのと。

あともう1点。

自分のことだとそれだけなんですよね、「時間だけ」っていう縛りな気がするんです。でも会社経営とかは結局、人を動かしていく中で「こういうことを会社で実現させたいので、この人間にはこういう動きをしてほしい」というのがあります。

そうなったときに、その人間にそういうことをしてもらうっていうイメージが僕にあったとしても、自分ほど、スッと変えられるイメージが湧かない。「それはなんでなのか？」っていうところ・・・流れがちょっと分からない。

前里

「人が変わるには時間がかかる」、もちろんそれはありますね。変わっていく社員も、今までも何人も見て来られている。だけどそれは、「全部自分の問題で人を変えられる」というよりも、「変わるって見えた人に対しては変える」んです。相手の問題じゃないんです。

えっと・・・少しぶっ飛んだような話に聞こえるかもしれませんけど、僕の根本の理解でちょっと話しますと、「自分以外というものは存在していません」。なので、すべて自分で決めたもので映像を映している。そこまでいくとちょっとぶっ飛び過ぎる

んで、少しあれなんですけども。それは結局、今のお話でいうと「時間が直線だ」っていうことです。

あと「5分後に家に行く」っていうようなことを「本気でやりたい」と思わないのであれば、今のやりとりの中で「やっぱり時間は直線である」っていうのを強固にしたい思いがあります。

「ここに移る」という好奇心ではなくて、「変わってしまうと今の自分がなくなってしまう」っていう根本の恐怖心というのが人間にあるんですよね。なので、そういう質問が浮かんでしまう。ですがそれも最後、「その遊びをやってみようかな」っていう思考を入れた中でやると、少しこちら側に寄ります。

だから「全部直線的に考えてしまうんだよな・・・」ではなくて、「最後の遊びとしてやってみようかな」っていうのを1個入れて、「これはどうなの？」っていうふうにやっていく。そうす

ると、直線的だった自分がいろいろ浮かびはじめるんですよね。

「あ、あれもこういう前提でやっていた」「これもこういう前提でやっていた」「これもこういう前提でやっていた」・・・っていうのがいろいろ浮かんできます。浮かんでいく最中は、移動している最中です。

なにか自分が会社をパッとつくろうとするときに、２週間以内に自分が向こう２～３か 月で会社の構想をつくるってなったときに、普通２週間で会社の構想って立てられないんですね。だけどそれも時間をどんどん短くして自分の中で制限を入れていくと、そういう情報が決めた瞬間から流れ始めるので、やれないとは思えなくなってくるんですよね。

じゃあそれをなんでやらないのか？「今の会社を、時間をかけて大きくしないといけない」という時間が頭に入っているから

です。「時間をかけて育てないといけない」「時間をかけて面と向かって社員と対峙しないといけない」。

Aさん

「時間をかけたくない！」っていう気持ちは強いなとは思っているんですけど、「かかってしまうと思っているのがよくない」ということですか？

前里

「よくない」っていうふうに思う必要はないと思います。僕が先ほどお話したのは、「時間を排除するのではなくて、時間を克服する」という言い方をしました。

「克服する」ということは「ジャマだ」っていう排除思想ではないんですよね。時間に対して敬意をもちながら、時間の中でこうやって人間は動きをとっているので、ゼロにする必要はない。それを克服していくということは、「それの少し遊び相手をしながらも、少しこっち側に下げていきましょう」っていうことです。

でも時間が「邪魔だよね、邪魔だよね」ってなると、時間にフォーカスが合い過ぎて、逆にこの直線が強化されていくようなことが起こるんですよね。

●時間はかからない　「商品が売れるまでの時間は？」

Aさん　もう1個いいですか？

前里　はい、どうぞ。

Aさん　僕は製造業なので、物をつくるのにどうしても物理的に時間が

かかるんですね。例えばデザインのイメージはパッと浮かんで出てくることもあれば、１週間かけてできないときもあるし。こういう考えで考えるようになってから少しイメージも湧きやすくなったんです。

それを実際、じゃあ作りましょうってなったときに、どうしても材料をつくったり決めたりという時間がかかる。この「時間」っていうものは僕のイメージなんですか？

前里

はい、はい。嬉しいです、そういう具体的なお話。例えば・・・「デザインをしてから売り場で売れるまで、時間がかかる」ということですね。ですが、「いつ、何枚、売れる必要があるのか」を、まず決めていません。「いつ何枚売れる必要がある」「いつ売り上げをこれだけ立てる必要がある」って決める。そうすると、「そこに時間がかかるかどうか」の問題になってきます。

Aさん　はぁ・・・。

前里　ザツに経営をやっていると、そういう考え方になります。この「時間をはさむ」ということは、細かく経営的に見ていくと、ザツです。「いつ、何枚、売れなければいけない」って決めていて、例えばそれが十枚売れる必要がある。それが二枚しか売れないのであれば、「時間がかかるなぁ」っていうのは成立します。

ですが、デザインから売り場までもっていく時間をトータルで考えても、経営の最終目的は「継続」です。継続するためには「売れた」っていう瞬間が必要になる。その「売れた」っていうものだけを見たときに、全国的に広げていくいろんなお店で「何枚売れた、何枚売れた」っていう。

「今日十枚売ろう」と思って十枚売れたんであれば、時間はか

かっていないということになります。なので、デザインを作って多くのところで発注して動かせる。その計画のもと、「いつ、予定通り売れた」。これは時間がかかっていない。意味分かりますか？

Aさん　分かります、分かります。

前里　そういうところで時間の概念が・・・。経営的な勉強をする未来での入口でこういう話をしていて、こういうようなやりとりも実際にありました。僕はそこに体が半透明になって、映らないで立って見ているだけなんですけども。

そういうふうに細かく見ていくと、自分の時間というものが「あ、こういうふうに時間を見ていたんだ」って分かってくると意外に・・・。

Aさん　しかもちょっと今・・・。

前里　少し・・・はい、そうですね。それでも少し、時間はかかるのかと。僕もそうでした。だけどこういうところで考えると、「いつこうしよう?」って決めている中で売れたものは、「時間がかかっていない」という概念になる。

●決断が時間を点にする　「時間をかけて遊びたい?」

司会　未来では営業職の方も多いと思うんですが、営業していくということは、そういう概念で「いつまでに、これだけ売れた」って考えることをイメージすることがいちばん大事なんですか？

前里　大事です。

例えばすごく大きな会社を経営されている方は、なにかをやるのに時間がかかるとはあまり思っていない。なんでかというと、「いつどれくらい？」っていうのを決めているのが頭にありますね。どこにでも、パワフルな社長さんはいます。

そういった方は「日々、なにかを決断している」ので、時間がかかるとあまり思ってないんですね。決断して決断して・・・決めたときに、それがパッと出る。なので今も、パッと決めている。「売れる」という予定のときに、売れるのもパッとまた時

間かからずに売れている。

経営戦略を立てるときに「いつ、どのように、誰に売るのか？」っていうのを考えるのは時間がかかるように見えるんですけども、それすらももう話をする前に頭の中で決まっています。あとはパッと発表するだけなんで、考える時間をとらずに考えがスッと入ってくるようなところがあるんですね。

それはこの辺を全部、トータルで包括的に「自分の概念」として見つめると、そういうものがパッと入ってくるんです。パッと伝えて、「はい、じゃあ、これやっておいて」みたいなことで、人を集める。

もしくはこの人を見た瞬間に、「あ、僕が考えていた構想を、あなたがやってくれませんか？」っていう話で、パッと動いたらその人の中にはもうデザインがあって、売り場もあって・・・

っていうものでパッと物語が動く。これが「時間が点になっていくリアリティ」です。

そこまでいっていないのであれば、「今は時間をかけて遊びたい！」という考え方なんで すね。「いってないからダメだ」じゃなくて、今はそういう手で遊んでいるからバタバタする必要がない。でも実際はバタバタ動いている人のほうが、バタバタしていないんですよね。

司会　あぁ・・・。

前里　「パッパッパッパッ！」ってやって、「点・点・点・点！」って動いているので、時間をかけてじっくりやって、バタバタしないで落ち着いてやっている人のほうが、時間が直線的だったり

します。

Aさん 会社で僕がいちばん悩んでいるのが、みんなが「時間がない」ってことなんです。

前里 はいはい、でも真理ですよね。「時間がない」って言っているってことであれば、点ですから「十分優秀だ」っていうことになりかねないですよね。「時間がない」という・・・(笑)

Aさん またそこを・・・。

前里 でも基本的には、社員の動きの責任は経営者にあります。

なので、それを社長自身の「時間に対する強固な思い込み」の反映でしかないっていうふうに見ると、自分に向き合っての「自分遊び」の問題になってくるんですよね。そうすると、なぜそ

ういう動きをしてうまくまわって成長しているのか分からなくても、「結果、まわっている」っていうようなことが起こるんで。

これは「時間の概念」や「本人の価値観」を、いろんなところから「どうやって入っていけばいいんだろう？」と思っている、今その思考すらも直線的なんです。「はじめからできる前提」で遊ばせる前提がないので、「そういうのに思い悩んで苦しんでいく中で、社長っていうのは磨かれていくもんなんだ」っていう観念がどっかにあるんだと思います。

これは「時間の概念」や「本人の価値観」を、いろんなところから「どうやって入っていけばいいんだろう？」と思っている、今その思考すらも直線的なんです。「はじめからできる前提」で遊ばせる前提がないので、「そういうのに思い悩んで苦しんでいく中で、社長っていうのは磨かれていくもんなんだ」っていう観念がどっかにあるんだと思います

これは「時間の概念」や「本人の価値観」を、いろんなところから「どうやって入っていけばいいんだろう？」と思っている、今その思考すらも直線的なんです。「はじめからできる前提」で遊ばせる前提がないので、「そういうのに思い悩んで苦しんでいく中で、社長っていうのは磨かれていくもんなんだ」っていう観念がどっかにあるんだと思います。

● 国境なき未来が来る　「日本流の先にあるのは？」

Bさん　（手をあげて）はい。

司会　はい、どうぞ。

Bさん　さっきのお話で、「未来の経営っていうのはスピードが速い」っていう話があったんですけど。現実、今日本の会社を見てみるといろんな大きい会社の社長とかも変わっていって、たぶんその背景には経営の戦略とかのスピードが速すぎて追随させるために新しい人を入れてやるとか。

もしくは今まで通り、大企業でやっていたものを新しい理念に変えてってやっていくとか、そういう一種の転換期だとは思うんです。海外でそういったことは昔からやっていて、外から人を連れてきたりとか他の業者から連れてきたりっていうのが日本と比べても比率が全然。

海外だと7割ぐらい、日本だと2割とか3割、最近増えてきたっていうのを考えると、「日本の経営のやり方」っていうのがや

っぱりちょっと世界に比べると遅れているっていうことなんですか？

前里　いや、日本には日本のやり方があるんだと思います。

なので「遅れている」とかっていうふうに僕個人は思いませんし、また僕がそう言う立場にはないとは思います。ただ、今は少し国が民族主義的な動きがありますけども、これは「夜明けの前がいちばん暗い」のと同じようなことで、一気に・・・。要は「国境がなくなっていく」。

その前には民族主義的なものが勃発した中で紛争が起こったあとに、「一気につながって いく」という現象に向かっているようなのがあります。それぞれが独立しようとする動きは今後も

続くと思います。「日本では、これがこういうやり方なんだ」「中国はこうなんだ」。だけどそれが、きれいに融合されていく。

後あとは、お金もなくなっているんですよね、僕が見た限りだと。それは「サービスの交換」で、食事すらお金を出して買ってこなくてもきれいにエネルギーがまわっていると、それが大丈夫になってくる。あとは、人は食事をする回数が減っていきます。そういうのもあって民族主義的な動きがあったあとで、人がつながっていくようになる。もう少し時間はかかりますが。

そういうのがある中で「経営者が変わる」っていうような動きがあって、日本でも「海外の経営者を入れるんではなくて、やっぱり日本人がいいんじゃなかろうか？」っていう動きが出てくると思います。

もともともっているものが、「経営者を入れる」というようなこ

とではなくて、「叩き上げの人のほうがいいんじゃないか」。これも少し民族主義的な考え方ではあるんですけれども、そういうのが1回出たあとで、いろんな落ち着いた流れにいくんだと思いますね。間違いかどうかは僕にはよく分かりませんが。その時間という概念を、その経営者がどう思っているかによって、いろんなことが変わっていくと思います。

●現実は望んでつくっている「病気は、どう癒せるのか？」

前里　病気に関しても、時間の概念がすごく大きいと思います。その本人が「病気をしている1コマ」、「病気をしていない1コマ」をもっている。ですが、「そこに行くまでにはすごい時間がかか

る」と思ってしまうと、どうしても時間がかかる。「どうやっても信じられない」っていうのであれば、今はそれを「好んで好んでそのスタイルを選んでいる」という解釈になります。なので、望んで望んで今を掴んでいるのは、「本人の明確な意思」です。

その中で「どうしたいのか？」を、自分の中で問いながら「どうしたいのか？」を見つけていく中で、時間の直線的なものが点になりやすくなっていきます。「自分がこうあるのは、いろんな時代背景やまわりの関係がある」っていうふうに責任を外に置いていると、こういうものが柔らかくなりにくい。現に僕がお会いした中で、カウンセリングとか。

特に体調が悪い中でお会いした、ガンの方とかでもそうでした。僕がヒーリングしたあと2～3か月くらい、残念ながら亡くなった方がいました。その方が亡くなったあと、僕に言ってきま

した。「固すぎた」と。

僕は「すごく考え方が固いな」って思ったんで「ガチガチ過ぎないですか？」って話を本人に・・・もう末期の方なので歩くのもギリギリでっていう方で。山口県の方で、僕は葬儀に行ったんですが、その方は亡くなって、「固かった」という話をしていたのが僕の中ですごくいろいろ教えてもらったなというのもあって。

「我を張る」っていうのが強すぎて、「正義だ」と思っている強い思いも「強固な信念」だと言われているものも、ちょっと使い方を間違うと・・・。そういうものが強固に病気をつくったときに、病気になってもなお、担当のお医者さんの文句を言ったりとかですね。

「あの人が！」って言うので、「その考え方を」って言ってもな

かなか通じなかった経験がある。でもそれは僕の力不足でもあります。今分かるのは、その人には同時にパラレルリアリティが存在するので、病気であっても健康な本人も存在するんですね。

その病気の人に会ったときに、別のパラレルからホログラムをもってきて見比べれば、「その人がどうやってこっちに行けるんだ？」っていうことがありました。その間に中間役として立つという位置があって、そのちょっとした手伝いをやる。これが、ヒーリングだったりする。

なので、それをやる力が僕にはまだなかったっていうのがあって、すでにうまく考えているんですけども。「ちょっと強いな、考え方が」っていうような方は多かった気はします。

ですが、なにかを決めて「こうやるんだ！」ってなったときには、本人の意志が必要なので、一概に「我が強いからダメだ」

っていうことではないですが、病気の中ではそういう方も多かったのかな。

●時間を手にして遊ぶ　「時間の力を借りるには？」

前里　ちょっと戻します。「デザインをしてから売れたっていうところまで、どうしても時間がかかる」というような話とかが、細かいところで時間の柔軟性が上がっていくと、なぜか時間かからないようになったりします。

冷静に考えるとですね、その現象というのは自分が「時間をかけたい！」っていう思いがあるからに他ならないので、そこを

自分の中でどう・・・。

じゃあ、もっているのであれば、「時間っていうボールとどうやってドッヂボールしようか？」「サッカーにしようか？」「リフテイングにしようか？」「バレーボールにしようか？」「どういう遊び方をしようか？」そう考えると、自分の中から少し時間が外に出てくるんですよね。

直線的な時間がちょっと外に出てくると、お手玉で遊んでいるみたいなかたちを取ると、直感的にいろんなものが入ってきます。実際になにかボールを買ってきて、「自分の直線の時間がボールになって出てきた」と仮定してこれを持って遊んだりすると、いろんなものが入ってきます。

「いかに、直線的にいろんなところを考えていたのか？」、それをやるだけでもすごく柔らかくなっていきます。僕はそのレッ

スンのやり方を聞いて僕自身もやりました。

「いっぱいあるな～」っていうところが、いろんな細かいところに張り付けられているの　で、「完全に排除する」っていう思いでは時間は力を貸してくれません。でもそういう「遊びでやる」と、いろんなものが瞬間的に終わっていく。

チャネリングをしている際は、特に相談を受ける仕事をやっていますので、「こういう問題があって・・・」って言ったそばからその問題が終わる道が見つかったりします。時間が点になると、そうやって、「このやり方でいくと終わるんじゃないですか？」っていうので「確かにそれはそうだ」となる。

なので、たくさん質問をもってきても質問を1～2個やったらあとは全部終わったっていう方にも何人もお会いした。それはチャネリングをしていたり、本人が創造性を発揮していくと、

直線が点になっていくということでもあるので。それはまた１つの例なのかなと思いますね。あとは、本人がどれだけ「それを使って遊ぼう」という思いで、そこに気持ちを投入できるのかというところにかかっていると思います。

●時代が転換期を迎えている「うつ病とは？」

司会　どうぞ、質問の時間をとろうと思っていますけれども、あと１０分ぐらいになりますので今ご質問がある方はどうぞ。

前里　あっという間ですよね。

Cさん　あの。

司会　はい、どうぞ。

Cさん　えっと・・・今病気の話が出たので、ちょっと「うつ病」についてお話したいんですけど。

前里　はい。

Cさん　今の若い世代に、うつ病というのがすごく増えているような話がありますけど、あれはなぜ起こるんでしょう？

前里　いろんな見方があると思います。全部話すと、僕は一瞬で嫌われることになると思うのですが。

うつ病の方も僕は何人もお会いしているので、そこに「力を貸

したい」っていう思い、前提でお話をさせていただきたいです。うつ病というのは、時代が変わっていく中でその転換期に当たると、どうしてもガタガタガタ！って揺れるので、そういうような現象が起こっているというのがまず１つと。

あとは、今までは社会体制や経済体制が、自分の思いではどうにもならなかったんです。

でも今はいろんな民主主義が社会の中に入っているので、声を上げれば、社会体制すら変えられるところがあります。これまでは、「声を上げても変わらない」っていう思いがあったんですね。それはもう世の中が悪い。だけど、今はどんどんどんどん悪い理由が遠い世の中ではなくて、どんどんどんどん・・・自分の近くに寄ってきている。

要は、「自分が悪いんだ！」っていうようなものが、社会体制や

経済体制のように遠くではなくて、声を上げれば世の中も変わる。今はどんどんどんどん、悪いと思えるものが自分の身近に近づいてきて、それに気付いて「苦しくてイヤで辛いな～」という思いになっているのも、うつ病の現象の１つでもあります。

「隣の人が悪い」と思えていたときはよかった、「国が悪い」と思えているときはよかった。

他には、「わがまま」が変換されると、うつ病というスタイルをとる方もいます。「自分の中にあるわがままさが、そうやって変換されている」っていうのをどっかで気付いたりするときに・・・。例えば僕が会った方ですごく印象的だったのが、もうすごく我が強く、わがままな感じがあって、本人も言っていたんですね。ただ僕が会ったときに「どうせ治せないだろう」っていう、ものすごい目があったりして。

「僕も治すつもりはありません」っていう話をして1時間しか話をしなかったんですけれ ども、1時間で終わりました。その方はずっと会社に行ってなかったんですけれども、翌週から会社に行きはじめました。

その人は「歯を抜かないといけない」「歯に虫歯があるんだ」。でもどこ行っても、そんな虫歯はない。だけど自分が「虫歯だから抜いてください」ってお願いして、それを抜かれた。「だからいろんな歯医者さんが自分の歯を抜いているんだ」っていうような、ちょっと精神的にも落ち着きがないようなところもあったんですけれども。1回カウンセリングをやった中で、その方の奥さんがあとで僕に会ったときに、「なにがどなったのか教えてください」って言っていました。

僕も「普通に話をしただけですよ」って言ったんですが。その

まま治ってしまったんですよね。それは本人のもつ創造性や、僕をきっかけとした本人の力で、「もう終わろう」「疲れたから終わろう」と思ったことで、それが終わった。

だからわがままであったとしても、いろんな原因があったとしても、大事なポイントはこうです。「本人がスイッチを入れさえすれば、時間を全部もっているという観念を終えることができるんだ」っていうことを知っていることなんだと思います。だから、どんなかたちで、どういう病気になろうが、終わらせようと思ったら終わらせることができる。

それは国が悪いんじゃなくて、自分が悪いから「自分の意思でなんでも変えられる」ということの裏返しでもあるんですよね。だからそういう考えが分かってくると、結局、「うまく動こうと思っても動けない」っていうところから、「自分の創造性を強く感じ過ぎて、発揮が怖かった」っていうところに行き着いてい

きます。

そうすると動きが一気に爆発的に出て、いろんなことをやりたくなってくる。そうなったときにまわりは止めたりするんですけれども、「それでも遠慮なくやってみたらいい」のかな。というのが僕の考えと、僕が今まで学んできたことを少しだけまとめるとそういうことになります。

Cさん　はい、ありがとうございます。

前里　どういうふうに受け取られるかはあれなんですが。

Cさん　今までの話の中で、自他の区別ではなくて、「自分が見ている世界はすべて自分が創造したものである」とありました。ならば、自分の家族に、例えばうつ病の人がいるってことは、自分がつくりあげている世界じゃないですか？

前里　はい、はい。

Cさん　それはなんで、つくりあげてしまっているんだろうかと・・・。

前里　ここ、すごく難しいところです。「自分がつくりあげている世界」ではあるんですけども、「他は存在する」んです。そこの説明がいつも僕は難しいなと思うんです。自分の足元からエネルギーが広がっていって、「他」をつくっている。「その中での経験」っていう名の人生。なので、「いろんな人がいていい」っていう前提があるので、自分のつくっているリアリティではありますけど、「自分が望まない人が目の前にいるからダメだ」っていうことは成立しないんですよ。

今のご質問であれば、「なぜ、自分はこういう感じをつくってしまっているんであろうか？」。それは、「罰を与える思考」が前

提になっているんです。意味、分かりますか？

Cさん　う～ん・・・。

前里　例えば、自分の子供をきっちり育てたのに、不良になってしまった。「なんで自分はこういう子供をつくらないといけない、目の前にしないといけないんだ」っていう言い方をするときには、「自分を罰しよう」という考えがある。

「罰を与えよう！」「ダメなんだ！」って言いたいがゆえに、そう見ているんですよね。

でもその方は、うつ病というスタイルをとりながらなにかを発信しているかもしれないし、一時期だけそれをちょっと休憩に使っているかもしれない。

どうしても休憩が必要な場合に、人は熱が出たりして体が強制的に「休め！」ってメールを送る場合もある・・・。そういうふうにちょっと柔軟性をもって考えると、「まぁ、そういう人もいるんじゃないか？」って。だけど、本気で治そうと思った場合は、また別だと思いますね。本気で治そうと思った場合には、質問の意図の仕方が変わるんだと思います。

「本気で治そう」ってなった場合には、「その人に対して時間が直線ではない」ことだったり、「イメージって使えることなのかな？」っていうようなものが精神を通してチャネリングする。だから、その人がいいパラレルに移る。ホログラムがどうしても映るんですよね、人って。

そこから無意識に情報を取って「こういうの飲んでみたら？ちょっと散歩してみる？」っていうことは全部ヒーリングに当たっていくんですよね。そうすると、「家族の力で治っていく」と

いう現象をまた目の前にすることができます。

Cさん　はい・・・分かりました。ありがとうございます。

●見たものは自分のものである「目標を実現するには？」

司会　もうあと3分になりましたけれども、どなたか。

Dさん　はい。

司会　どうぞ。

Dさん

「目標を実現する、しない」っていうことで質問なんですけど。確かに実現している人って、高いイメージをもって行動を起こしていると思うんです　よ。イメージをもっていてもできない・・・「できる人とできない人との差」は何なんですか？

前里

まず「意識がひとつである」という概念を理解することが必要です。「ひとつ」であるからこそ、「自分のものである」ということですね。次に大事なのが、「見る・感じる・なりきる」というこの順番が必要になっていきます。

「ひとつになる」「ひとつである」という前提の中、目標をきっちり「見る」ということと、そこを「感じる」ということと、「なりきってみる」っていう行為があれば実現していきます。それをどっかの地点が抜けているのか、信じられないようなことがあって入れていないのか。

だけどやっている人は、「見たものは自分のものだ」という思いが直感的に浮かぶようになっているので、どこかの訓練でそうなっていくと思うんです。「見る・感じる・なりきる」っていうのは1つの順番です。

「見て」っていうのは3次元なんですよね。だけど「感じて」っていうのは、もう4次元に近い。「なりきる」というのはモノマネと同じなので、「もう前の自分を1回捨てて、そこに入りきる」っていうことでいうと、「なりきった瞬間に実現」ということになりますので。

実際はこの3つの手順を踏まずに、3つ目に入ったときには実現している。そういうことを本人が、実現したい方は実現するための情報やツールを必ず耳にするようになっています。ですが実現していない方は、それを「今は都合が悪い」って直線的に思い込んですぐに実現して困る方は、そういう情報とかツー

ルを耳に入れない。なので、「本人の自由意思で決められている」というふうに考えることができます。

Dさん　「実現していない人」っていうのは、将来のイメージになりきれていないというか、信じないタイプというところですか・・・？

前里　はい。「誰かの観念を自分の中に入れる」。誰かの意見を真実だと思って中に入れてしまっていると、それは自分の真実にもなってしまう。例えば、「北海道出身だから東京ではうまくいかない」っていうのは意見でしかない。真実ではないですね。

北海道の方でも、いくらでも東京で成功できる。ですが、それをなんとなく「真実だ、そうだ」って思い込んで、それが作用しきってしまうと東京ではなかなか実現できない。人の話を聞くときにポイントとしては、「意見として聞くのか、真実として聞くのか？」ということがあります。この区分けをするだけで

も、すごく楽になっていくのかな。

言っていることが「これは意見だよね」。でも「真実だ」って入れてしまうと、それが作動してしまう。なので、「自分の中に入れる真実は、選ぶ必要がある」というふうに思います。

Dさん　ありがとうございます。

前里　はい。

●すべてはテンションで決まる　「あなたの意志が、弱いのか？」

司会　どうぞ、最後なのでどうぞ。

Eさん　「考えを変える」というのは・・・物理的になにかを変えないと、「あぁ、これはいいな～」と思っても、三日坊主ですぐ忘れてしまうんですけれど、これは・・・意志が弱いから？

前里　「意志が弱い」というふうに取る必要はないと思いますね。「いろんなテンションを自分がもっている」という認識で十分だと思います。なので、「今これをやりたい」と思ってやって3日でやめたんであれば、「そういうトレンドだ」っていうふうに見られるかどうかです。

「今はそういうトレンドなんだ」って見ると、罰しなくなります、自分のことを。罰を与えていれば、力はどんどん増幅していきますので、「トレンドだ」って見ていると「ダメだ」っていうふうにはならない。そのテンションを重要視していく。この

手もテンションで自由に動いて・・・この世界はすべてテンションです。そこが分かってくると・・・。

「ノリでパッとつくっていこう！」ってなる。でも軽いノリでやっているように見えて、きっちり理念も戦略も構築された中で、「あなた、やりませんか？」ってたまたま出会った人に言ってやろうとして「軽いな～」って思っても、きっちり会社をつくっていく方がいるんですよね。

そういう方はテンションを大事にしながらも、この「自分の線の統一性がある」というのはポイントとしてはあります。自分がどういうスタイルでいきたいのかを決めて、「今はどういうテンションなんだ」「やめたとしても今はそういうトレンドなんだ」っていうふうに考えると、もう1回仕切り直しがすぐできるので、時間が点になります。

「三日坊主で・・・」ってなると、これは「時間が直線」っていう産物でそう思ってしまっているので、そう思うとすごく苦しくなってしまうと思いますね。

Eさん　分かりました。

前里　はい。

司会　じゃあ、お時間が来ましたので講演を終わらせていただきます。このあと少々トイレ休憩を入れまして、すぐにお食事とお飲み物を用意いたします。そこでまた皆様、ご歓談、懇親会を１時間ほどさせていただきます。本日は９０分、どうもありがとうございました。

前里　ありがとうございました。

（大きな拍手が鳴る）